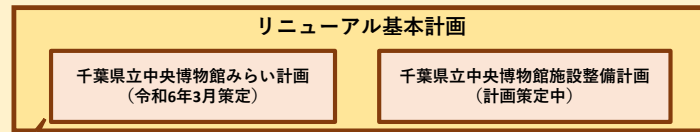


千葉県立中央博物館実施計画（令和7年度～令和10年度）の位置づけと概要

令和7年3月
県立中央博物館

（１）本計画の位置づけ

令和6年3月にリニューアルを見据えたソフト面の基本計画として策定した「千葉県立中央博物館みらい計画」では、これからの中央博物館が目指す姿等を定めました。これをうけ、今後4年間で取組むべき事業をまとめた計画として本計画を策定します。



千葉県立中央博物館実施計画 (本計画：令和7年3月策定)

千葉県立中央博物館みらい計画の概要

基本コンセプト

多彩な特徴をもつ半島ちばの未来を切り拓く

目指す姿

- 1) 千葉の自然と歴史、文化を見つけ、伝え、残す博物館
- 2) 千葉から世界に拓く博物館

大切にする価値観

- 1) 資料やフィールド活動を大切にする
- 2) 中央博物館からつながりの輪を広げる

取組みの方針

「つながり」の視点で5つに整理し、
収集保管、調査研究、展示教育普及などの
博物館活動を行っている



（２）本計画の概要

収集・保管、調査・研究、展示・教育普及を基盤事業として着実に進めるとともに、特に力を入れて取組む事業を重点事業として整理。

総合的目標					
指標	現状（R5年度）			目標（R10年度）	
年間利用者数	入館者数	本館	96,381人	入館者数	本館 146,000人
		海博	60,118人		海博 61,000人
ウェブアクセス数 (R3～5年度平均)		本館	203,613件	ウェブアクセス数	本館 240,000件
		海博	55,463件		海博 66,000件

※海博：分館海の博物館

基盤事業

収集・保管

- ・資料の積極的な収集・保管体制の整備
- ・誰もが博物館資料とつながることができる環境の確立

調査・研究

- ・集約する地域館の機能を引き継ぎ、自然と人文両分野が連携した視点での活動
- ・県域を俯瞰した視点や全国的、国際的視点での活動の推進

展示・教育普及

- ・自然と歴史、文化の魅力や課題を伝える
- ・時事的な話題や県民ニーズを踏まえた展示・教育普及事業の実施
- ・誰もが楽しめる魅力的な空間の創出

重点事業

1 千葉の海の魅力を探り、国内外に発信

○千葉の海の魅力を探る調査研究の推進と発信

- ・東京湾の調査研究と成果発信
- ・海藻利用の調査研究と成果発信
- ・海の幸に関する展示開催 など

○千葉の海をフィールドとした観察会や見学会の開催

- ・房総の海辺の生物や地形、文化等の観察会の開催
- ・勝浦の磯を中心とした海洋生物等の観察会の開催



勝浦の磯の海洋生物の観察会

2 世界とのつながりを意識した活動

○生物多様性等に関する研究の推進と発信

- ・県内各地の動植物の調査研究と成果発信
- ・生態圏の環境や動植物の調査研究と成果発信

○世界の博物館等との連携・交流

- ・海外の博物館等との交流事業の開催
- ・海外の機関との研究交流



韓国国立民俗博物館との交流事業

○ウェブサイト、展示等の多言語化

- ・ウェブサイト表現の平易化と英文の併記
- ・展示パネル等の表現の平易化と英文の併記 など

○千葉県と世界のかかわりについての研究

- ・海外の学問やお茶、海藻など、千葉と世界のかかわりについての調査研究と成果発信

3 他機関との連携強化

○様々な主体との連携

- ・君津市等と連携したフィールド・ミュージアム事業の実施
- ・県内各地の観察ガイドマップの作成
- ・様々な主体と連携したイベント実施 など

○青葉の森公園周辺施設との連携強化

- ・公園で1日過ごせるプログラムの実施
- ・県立図書館との連携事業の実施
- ・「あおばまつり」等への参加 など



民間商業施設でのイベントの様子

○博物館や研究機関等との連携強化

- ・国立歴史民俗博物館との連携強化
- ・東京大学千葉演習林との連携強化
- ・市町村博物館との共同研究等の実施 など

4 デジタル技術の活用

○博物館資料情報のデジタル化とウェブコンテンツの充実

- ・資料情報のデジタル化と公開
- ・ウェブコンテンツの充実 など

○外部システムとの連携

- ・国内外のネットワークと連携した資料情報発信
- ・研究者間の交流促進 など

○オンラインによる行事の実施

- ・オンライン講座や講演会の開催
- ・海外機関とのオンライン・シンポジウムの開催

○展示等におけるデジタル技術の活用

- ・デジタル資料情報を展示に活用
- ・SNS等による研究成果等の発信



ナウマンゾウ骨格3Dデータ

5 資料を未来に引き継ぐ

○収集資料の標本化・整理作業及び登録の推進、地域館資料の集約・保管

- ・収集資料の標本化・整理作業の推進
- ・資料データベースへの登録推進 など

○資料管理体制の強化

- ・収蔵資料の管理体制強化
- ・職員の資料保存スキルの向上

○資料救済ネットワーク拠点機能の強化

- ・県内各地の資料情報の集約
- ・全国規模の資料救済システムとの連携
- ・資料継承に関する相談受付 など



東日本地震被災標本のレスキュー